⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、1,341億円の受取超過であって、前年同期（900億円の受取超過）に比べ、440億円受取超過額が増加した。収入は、前年同期（2,044億円）に比べ、702億円減少して1,341億円となった。一方、支出は、前年同期（1,144億円）に比べ、1,143億円減少して１億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入1,837億円、支出9,433億円、差引き7,596億円の支払超過であって、前年同期（5,869億円の支払超過）に比べ、1,727億円支払超過額が増加した。

保険の収支は、収入８兆5,149億円、支出16兆1,318億円、差引き７兆6,169億円の支払超過であって、前年同期（５兆7,861億円の支払超過）に比べ、１兆8,308億円支払超過額が増加した。

3　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成21年度第３・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	292,756	201,334	91,423	273,847	169,765	104,082
国債(１年超)	292,180	200,977	91,203	273,250	169,387	103,863
借入金	576	356	220	597	378	219
国庫短期証券等	1,062,825	982,405	80,420	843,929	792,947	50,982
国庫短期証券	948,825	868,405	80,420	728,685	677,747	50,938
一時借入金	114,000	114,000	△ 0	115,244	115,200	44

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、９兆1,423億円の受取超過であって、前年同期（10兆4,082億円の受取超過）に比べ、１兆2,660億円受取超過額が減少した。国債（１年超）の収支は、発行29兆2,180億円、償還20兆977億円、差引き９兆1,203億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入576億円、償還356億円、差引き220億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、８兆420億円の受取超過であって、前年同期（５兆982億円の受取超過）に比べ、２兆9,438億円受取超過額が増加した。国庫短期証券の収支は、発行94兆8,825億円、償還86兆8,405億円、差引き８兆420億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆4,000億円、償還11兆4,000億円、差引き０億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 33,194	△ 83,037	△ 116,230
特別会計等	△ 96,131	108,158	12,027
財政投融資	2,956	△ 8,675	△ 5,718
社会資本整備事業	△ 7,596	8,483	888
外国為替資金	1,341	173	1,513
保険	△ 76,169	82,381	6,212
その他	△ 16,662	25,796	9,133
小計	△ 129,324	25,121	△ 104,203
国債等	91,423	△ 12,310	79,112
国債（１年超）	91,203	△ 12,467	78,736
借入金	220	157	376
国庫短期証券等	80,420	△ 12,811	67,609
国庫短期証券	80,420	△ 17,636	62,784
一時借入金	△ 0	4,825	4,825
合計	42,518	—	42,518
調整項目	98	—	98
総計	42,617	—	42,617

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成21年度第３・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 9,599	△ 42,012
特別会計の債券売・買（△）	35,476	60,359
財政投融資	34,110	39,520
国債整理基金	1,366	20,839
その他	△ 63,695	△ 68,394
計	△ 37,818	△ 50,047

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、３兆7,818億円の支払超過であって、前年同期（５兆47億円の支払超過）に比べ、１兆2,229億円支払超過額が減少した。

その内容についてみると次のとおりである。

1　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達４兆6,153億円、資金返済５兆5,753億円、差引き9,599億円の支払超過であって、前年同期（４兆2,012億円の支払超過）に比べ、３兆2,413億円支払超過額が減少した。

2　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、３兆5,476億円の受取超過であって、前年同期（６兆359億円の受取超過）に比べ、２兆4,883億円受取超過額が減少した。財政投融資は、３兆4,110億円の受取超過であって、前年同期（３兆9,520億円の受取超過）に比べ、5,410億円受取超過額が減少した。国債整理基金は、1,366億円の受取超過であって、前年同期（２兆839億円の受取超過）に比べ、１兆9,473億円受取超過額が減少した。

3　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、６兆3,695億円の支払超過であって、前年同期（６兆8,394億円の支払超過）に比べ、4,699億円支払超過額が減少した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（４兆2,617億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（98億円の受取超過）を除いた収支は、４兆2,518億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、３兆7,818億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（２兆1,168億円）に比べ、4,700億円増加して２兆5,868億円となった。